

# 国 語

( J a p a n e s e )

## 1 教育理念および目標

国語を正しく理解し適切に表現する能力を高めると同時に、思考力を伸ばし心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深めて、総合的な国語力を身につけさせる。また、国語を尊重してその向上を図る姿勢を育むとともに、優秀な工業技術者育成の一端を担っているという自覚を持って、授業に臨みたい。

## 2 教育方針

低学年では、現代文・古文・漢文をバランスよく配置し、系統的かつ実践的な学習を通して、基礎力の充実と豊かな言語能力の習得を目指し、高学年では、文章表現の技術の習得や読解力の充実を図る。また、全学年ともに、漢字や作文の練習を恒常的に行う。

## 3 教育課程

学 年	授 業 科 目	単 位	内 容
1 年	国 語 必 修	2	基礎力の習得（現代文・古文・漢文）
2 年	国 語 必 修	2	応用力の習得（現代文・古文・漢文）
3 年	国 語 必 修	2	現代文の読解・鑑賞
4 年	国語表現 必 修	2	実用文の書き方
5 年	国語講読 選択必修	1	日本の言語作品の読解・鑑賞

# 社 会

( S o c i a l S t u d i e s )

## 1 教育理念および目標

社会生活に必要な基礎的な知識・態度・技能などを学習する教材として、現実の厳しい姿を直視、同時に過去の忘れ去ることのできない様々な事象を客観的に考え、自ら人間としての在り方、生き方について考える力を養い、社会的存在として必要な能力と態度を育む。

## 2 教育方針

1年、2年の低学年では、現在の我々の存立基盤をなす、世界について学ぶため地理、歴史、さらに様々な思考を網羅的に把握するため、倫理社会を開講する。

3年では、我々が社会生活を送るのに必要な、政治的・経済的な基礎知識を習得するため、政治経済を開講する。

5年では、より専門的な社会・歴史的事項を把握するため、法学を始め、哲学・経済学・歴史学特講を開講する。

## 3 教育課程

学 年	授 業 科 目		単 位	内 容
1 年	地 理	必 修	2	世界の地形、世界の諸地域他
	歴 史 学	必 修	2	明治・大正の日本と世界、昭和の政治と戦争
2 年	歴 史 学	必 修	2	市民革命から現代へ
	倫理社会	必 修	2	現代人と様々な生き方、現代に生きる思想家たち
3 年	政治経済	必 修	2	現代の世界と日本、現代の政治と民主社会、現代の経済と国民生活
5 年	法 学	必 修	1	民主政治の基本原則、日本国憲法と民主政治他
	哲 学	選択必修	1	科学的思考、空間的思考、存在と認識
	経 済 学	選択必修	1	生産力と生産関係、資本と利潤、景気循環、国家と財政
	歴史学特講	選択必修	1	第二次世界大戦後の国際社会

# 数 学

## (Mathematics)

### 1. 教育理念および目標

- (1) 数学における基本的な知識の修得と技能の習熟を図る。
- (2) 数学的論理を通じて思考力, 表現力, 創造力の育成を図る。
- (3) 工学において必要となる数学の知識および計算手法を修得させる。
- (4) 現象を数学的にとらえ, 記述し, 処理することにより問題を解決する能力を養う。
- (5) 数学的教養を高める。

### 2. 教育方針

専門および関連する科目との連携を取りながら教育を行う。1, 2, 3, 4 年で導入されているグラフ電卓は適宜用いることとし, 概念理解や学生の探求活動を援助するようにする。

### 3. 教育課程

学年	授 業 科 目	単 位	内 容
1 年	基礎解析A(必修)	4	数と式, 方程式, ・不等式, 2 次関数, 指数・対数関数
	基礎数学B(必修)	3	三角関数, 平面図形・曲線, 平面ベクトル, 空間ベクトル, 数ベクトル, 図形とベクトル
2 年	解析 I (必修)	4	関数の極限, 微分法とその応用, 積分法とその応用
	線形代数(必修)	2	行列とその演算, 連立1次方程式, 行列式, ベクトル空間と線形写像, 固有値と行列の対角化
3 年	解析 II (必修)	3	微積分の応用, 偏微分, 重積分
	※数理統計学(必修)	2	確率, 統計
4 年	解析 III (必修)	2	微分方程式, フーリエ解析, ラプラス変換
	※応用数学(必修)	2(1)	複素関数論, ベクトル解析 (注) 解析 III と応用数学の両教科で上記各分野を授業します。また物質工学科は 1 単位
5 年	数学特講(選択必修)	1	数学の総合的な演習, 数学各分野の話題など

(備考)3 年次履修の数理統計学および 4 年次履修の応用数学は, 各専門学科に掲載。

# 理 科

( S c i e n c e )

## 1 教育理念および目標

自然現象としての物理、工学基礎物理、化学、生物を学ばせる。さらに、専門科目を学習するための基礎学力をつけさせる。

物理では、工学、理学の基礎としての物理法則を理解させる。物理学が数学と密接に関係していることも理解させる。

化学では、自然や生活環境における化学の基本的概念を理解させる。

生物では、生命科学の基本的概念を理解させる。

工学基礎物理では、1・2年の物理で学んだ事項をさらに深めて、物理の基本法則と、それから導かれる結果について十分理解できるようにする。

## 2 教育方針

一般科目および専門基礎科目の自然科学の分野の教育を行う。

物理では、数学をあまり使わない身近な問題から学習を始める。また、実験、実習を併用することにより自発的な問題提起が出来るようにする。

化学では、出来るだけ多くの演習を行い、また、学習した原理、法則、物質の性質を理解させるために実験を取り入れる。

生物では、現在進歩の著しい分子生物学の基礎となる部分を中心に講義し、最新的话题をビデオ等で紹介し、講義内容に興味を持たせる。

工学基礎物理では、微分、積分などを用いて物理事象の説明を行う。講義のほか、実験を実施して理解を深めさせる。

## 3 教育課程

学年	授 業 科 目		単 位	内 容
1 年	物 理	必 修	2	物理学への導入、速度と加速度、運動方程式、慣性系
	化 学	必 修	2	物質の構成、状態および反応
	生 物	必 修	1	進化、細胞、生殖、遺伝、生命活動
2 年	物 理	必 修	3	光、熱、波、電磁場、原子
	化 学	必 修	2	物質の変化、無機物質および有機物質の性質
3 年	工学基礎物理 I	必 修	2	質点・質点系の力学、剛体の力学、振動・波動、工学基礎物理実験
4 年	工学基礎物理 II	必 修	2	弾性体・流体の力学、光学、熱力学、電磁気学、特殊相対性理論、量子論、現代物理学、工学基礎物理実験

(備考) (1) 3年及び4年で履修する工学基礎物理は、専門科目で授業内容は関係する学科に掲載した。

# 保 健 体 育

(Health and Physical Education)

## 1 教育理念および目標

ますます高度で多様化する現代社会において、身体的・知的・情緒的・社会的に調和のとれた全人的発達を遂げた社会人として、豊かで活力あふれる生活を現代・将来にわたって営める能力や態度を養うために、身体および健康に関する知識や身体運動の実践による身体や精神にもたらす効果、さらに身体運動の科学的理解による実践・応用力向上等の効果を実技・講義を通して教授する。

## 2 教育方針

低学年（1～3年）では身体・健康・スポーツに関する基礎的理解と実践力を身につけることを主なねらいとし、球技・陸上競技・水泳・柔剣道の基礎的運動技術習得に重点がおかれ、高学年（4年）ではスポーツの実践力とスポーツの生活化を目指し、各自がスポーツ種目を選択し、長期にわたる同一種目の実施によりスポーツ実践における種々の問題解決能力を身につけるよう自学自習の授業形態を中心とする。また、全学年を通してスポーツテストにより体力・運動能力の自己評価を行なわせ、その維持・向上を図るとともに、授業への出席はもちろん日常生活における姿勢にも留意させる。

欠課時数が年間授業時間数の3分の1を超える者は不合格となるが、1学年の保健体育では体育（実技）・柔剣道・保健を独立してこれを適用する。また、特に体育柔剣道は実技であるため、3分の1を超えていなくても不合格となる場合があり、遅刻・早退は2回で1回の欠席と算定する。

## 3 教育課程

学年	授 業 科 目		単 位	内 容
1年	保 健 体 育	必 修	4	体 育 実 技 柔道・剣道（いずれか選択） 保 健
2年	保 健 体 育	必 修	2	体 育 実 技
3年	保 健 体 育	必 修	2	体 育 実 技
4年	保 健 体 育	必 修	2	体 育 実 技
合 計			10	

# 芸 術

(A r t s)

## 1 教育理念および目標

一定の材料・技巧・様式などによって美の創作・表現を行う科目である。人間として生きていく上において欠くことのできない豊かな感性を育むために、様々な作品を鑑賞し、あるいは創作する。

## 2 教育方針

1年では、世界の音楽の鑑賞と歌唱を行う。2年では、世界の美術の鑑賞や創作に主眼を置く。

## 3 教育課程

学 年	授 業 科 目	単 位	内 容
1 年	音 楽 必 修	1	歌声を合わせて、リズムにのって、日本のメロディー、名曲を訪ねて、選択曲、器楽曲、鑑賞
2 年	美 術 必 修	1	美術史、自分なりのスケッチ、見つけて描いて、ものたちの表情、卓上の果物たち、日本の花、いろいろな視点で、四季それぞれ、作品の提出

# 外 国 語

## (Foreign Language)

# 英 語

## (English)

### 1 教育理念および目標

5年間の一貫したカリキュラムを通じ、英語を理解し、英語で表現する能力を養い、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。これと並行して、国際文化の理解を深め、工学系技術者にふさわしい英語によるコミュニケーション能力の養成を目指す。

### 2 教育方針

英語Ⅰ・Ⅱは、高等学校検定教科書を使用し、英語Ⅲ・Ⅳ・Ⅴおよび英語特講は、大学一般教育用テキスト等を使用して演習や講義を行う。コミュニケーションⅠ・Ⅱは、外国人講師による授業も行う。

### 3 教育課程

学年	授 業 科 目	単 位	内 容	
1年	英 語 Ⅰ	必 修	4	4技能の調和のとれた基本的学習
	コミュニケーションⅠ	必 修	2	日常会話の基本的表現などの学習
2年	英 語 Ⅱ	必 修	2	4技能の調和のとれた基本的学習
	コミュニケーションⅡ	必 修	2	基本的会話表現や外国文化の学習
3年	英 語 Ⅲ	必 修	4	読解・聴解を主とした総合的コミュニケーション能力の養成
4年	英 語 Ⅳ	必 修	2	読解・聴解を主とし、学習者の科学的知識を生かした総合的なコミュニケーション能力の養成
5年	英 語 Ⅴ	必 修	2	国際社会で通用する総合的コミュニケーション能力の養成
	英 語 特 講	選 択 必 修	1	総合的なコミュニケーション能力の養成

# 英語検定の資格をとろう

今や英語力は学校の授業だけのものというものではありません。多くの企業においても英語力が問われ、昇進や昇給に関係したり、海外派遣の条件として要求されています。

英語検定の中には、実用英語技能検定（実用英検）や工業英語能力検定(工業英検)というものがあり、卒業までにはこのような検定試験に合格しておくことが望まれます。

また、本校における優遇措置として、上記の検定に合格すると本校の英語科の科目として単位が認定されるという特典もあります。

## 英語検定の合格による単位認定について

英語検定の合格により認定される単位数は次の表のとおりです。ただし、一度単位の修得を認定された後、さらに上位の審査基準に合格した場合は、当該上位単位数と既に認められた単位数との差が修得単位として認定されます。

### (1) 実用英検

審査基準	準2級	2級	準1級	1級
認定単位数	1	2	4	6

(注) 準2級に関しては、第1学年から第3学年までの間に合格した場合のみ認定。

### (2) 工業英検

審査基準	4級	3級	2級	1級
認定単位数	1	2	4	6

(注) 4級に関しては、第1学年から第3学年までの間に合格した場合のみ認定。

認定された単位の科目名は、それぞれ「実用英語技能検定\*級」、「工業英語能力検定\*級」として認定され、授業科目の評価は「優」となります。

認定された単位は、実用英検については一般科目の選択科目として、工業英検については専門科目の選択科目として取り扱い、卒業要件の単位数には含まれません。

単位の認定を希望する場合は、「技能審査単位修得申請書」に「合格を証する書類」(写)を添えて、学生課教務係に提出します。

## 認定単位の振替について

認定された単位のうち1単位を第5学年の選択必修科目「英語特講」の単位に充当(単位振替)することができ、この科目の履修は免除されます。ただし、工業英検にあつては、審査基準の4級を除きます(平成11年度入学者から適用)。また、単位振替を希望する単位は、第4学年までに認定されなければなりません。

単位振替を希望する場合は、第5学年に進級する時に、「技能審査合格修得認定単位振替申請書」を添えて、学生課教務係に提出します。

# 第 二 外 国 語

(The Second Foreign Language)

## 1 教育理念および目標

国際的な相互理解が求められる今日、英語以外の外国語修得の必要性も高まってきた。4・5年生を通じて、外国語で積極的なコミュニケーションを図る意識を高め、基本的な文法理解、語彙力および読解力の養成をめざす。

## 2 教育方針

4年では、発音と初級文法、および簡単な会話文などを学ぶ。5年では、基本文型を把握し、読解力を高めるために、多くの例文にあたる。

## 3 教育課程

学年	授 業 科 目	単 位	内 容
4 年	ドイツ語	選択必修	2 発音、動詞や名詞の変化他
	中国語	選択必修	2 発音、会話文
5 年	ドイツ語	選択必修	2 初級後期～中級前半文法、講読
	中国語	選択必修	2 形容詞述語文、名詞述語文、さまざまな表現

平成22年度教育課程表

各学科共通 (第1・2・3・4学年)

授 業 科 目		単位数	学 年 別 配 当					備 考	
			1年	2年	3年	4年	5年		
必修科目	国語	国語	6	2	2	2			
		国語表現	2				2		
	社会	倫理社会	2		2				
		政治経済	2			2			
		法学	1					1	
		歴史	4	2	2				
		地理	2	2					
	数学	基礎解析A	4	4					
		基礎解析B	3	3					
		解析I	4		4				
		線形代数	2		2				
		解析II	3			3			
		解析III	2				2		
	理科	物理	5	2	3				
		化学	4	2	2				
		生物	1	1					
	保健体育		10	4	2	2	2		
	芸術	美術	1		1				
		音楽	1	1					
	外国語	英語I	4	4					
		コミュニケーションI	2	2					
		英語II	2		2				
		コミュニケーションII	2		2				
		英語III	4			4			
		英語IV	2				2		
	英語V	2					2		
修得単位計		77	29	24	13	8	3		
選択必修科目	ドイツ語	4				2	2	4,5年を通して1科目選択	
	中国語	4				2	2		
	国語講読	1					1	各科目前期、後期各1単位	
	哲学	1					1	開講6単位中	
	経済学	1					1	前期1単位、後期1単位の2	
	歴史学特講	1					1	単位(2科目)	
	数学特講	1					1	取得	
	英語特講	1					1		
修得単位計	6				2	4			
修得単位合計		83	29	24	13	10	7		

平成22年度教育課程表

各学科共通 (第5学年)

授 業 科 目			単位数	学 年 別 配 当					備 考
				1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	国語	国語	6	2	2	2			
		国語表現	2				2		
	社会	倫理社会	2		2				
		政治経済	2			2			
		法学	1					1	
		歴史	4	2	2				
		地理	2	2					
	数学	基礎解析	5	5					
		数学演習	2	2					
		解析Ⅰ	4		4				
		線形代数	2		2				
		解析Ⅱ	3			3			
		解析Ⅲ	2				2		
	理科	物理	5	2	3				
		化学	4	2	2				
		生物	1	1					
	保健体育		10	4	2	2	2		
	芸術	美術	1		1				
		音楽	1	1					
	外国語	英語Ⅰ	4	4					
		コミュニケーションⅠ	2	2					
		英語Ⅱ	2		2				
		コミュニケーションⅡ	2		2				
		英語Ⅲ	4			4			
		英語Ⅳ	2				2		
		英語Ⅴ	2					2	
修得単位計		77	29	24	13	8	3		
選択必修科目	ドイツ語	4				2	2	4,5年を通して1科目選択	
	中国語	4				2	2		
	国語講読	1					1	各科目前期、後期各1単位	
	哲学	1					1	開講6単位中	
	経済学	1					1	前期1単位、後期1単位の2	
	歴史学特講	1					1	単位(2科目)	
	数学特講	1					1	取得	
	英語特講	1					1		
修得単位計		6				2	4		
修得単位合計			83	29	24	13	10	7	

別表3 第13条第4項により施行される授業科目

(1) 各学科共通

授 業 科 目			単位数	学年別配当		備 考
				4年	5年	
必修科目	数学	解析Ⅲ	2	2		
	外国語	英語Ⅳ	2	2		
		英語Ⅴ	2		2	
計			6	4	2	

# 機 械 工 学 科

(Department of Mechanical Engineering)

## 1 概要

機械工学は、「ものづくりのための工学」として、豊かな社会を作り出すための中心的役割を担っています。現在の工業技術は高度化、多様化に向かって急速に進んでいますが、機械技術も知能ロボットに代表されるように、エレクトロニクス、コンピュータ技術を取込んで高機能化し、頭脳集約的になっています。

機械工学科では、ものづくりのための基礎的な知識技術を修得すると同時に、このような技術の進歩にも十分対応できる幅広い視野と、実践的で総合的な設計・開発能力を持った機械技術者の養成を目指しています。

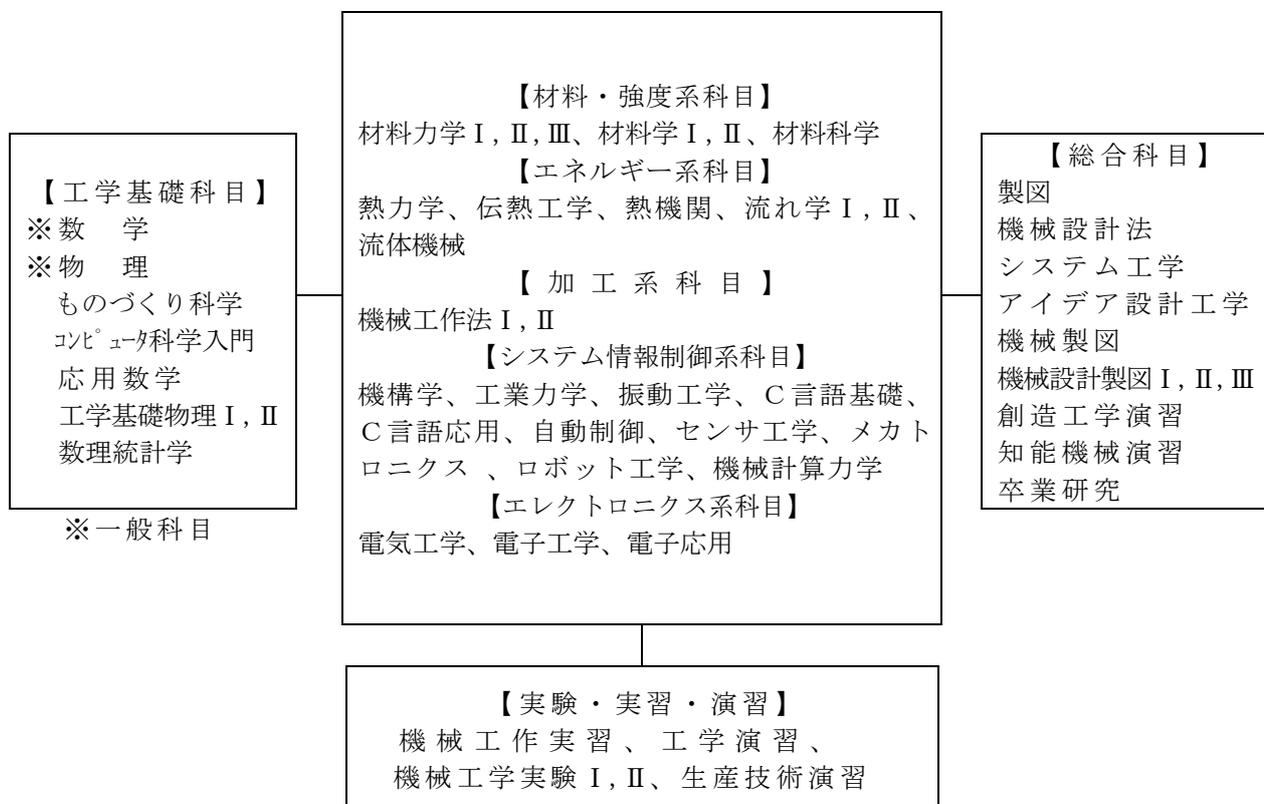
## 2 授業内容

機械工学科の授業科目は、材料・強度系、エネルギー系、加工系、システム情報制御系、エレクトロニクス系から構成されていますが、これらは数学や物理等の工学基礎科目を基盤とし、専門知識を統合・融合した機械設計法、システム工学、機械設計製図、機械工学実験、知能機械演習、生産技術演習、アイデア設計工学等の総合科目に展開されます。

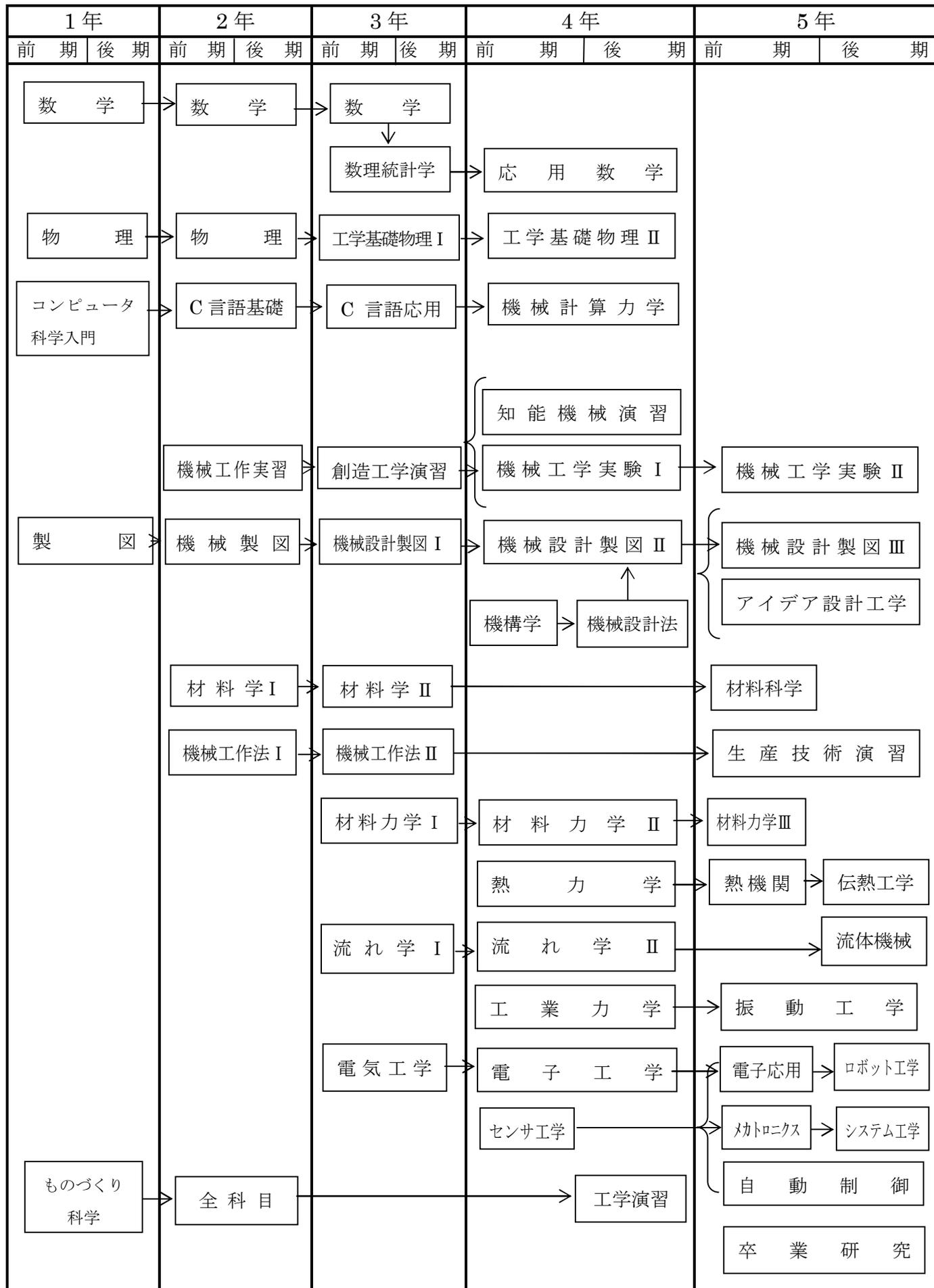
低学年では、機械工学におけるものづくりの基本である機械製図・機械工作実習や材料学・機械工作法等の学習を通して、ものづくりの本質を理解しセンスを磨くとともに実践力を身に付けます。高学年での材料力学、熱力学、流れ学、機構学、工業力学など機械工学の根幹をなす基礎科目の学習においては、多くの演習を課して理解を深め実際問題に適用できる解析力と応用力を養います。また、エレクトロニクスおよびシステム・情報・制御に関する基礎的な知識技術を修得し、技術の高度化、多様化に十分対応できる機械技術者の養成を目指しています。さらに、これらの科目の知識技術を総合して一つの機械システムにまとめ上げる創造性豊かな設計・開発能力を持った技術者の養成を行います。

(1・2・3・4・5学年)

授業科目の構成



## 機械工学科授業科目系統図 (1・2・3・4・5 学年)



平成22年度教育課程表

機械工学科

授 業 科 目	単位数	学 年 別 配 当					備 考
		1年	2年	3年	4年	5年	
数理統計学	2			2			
応用数学	2				2		
工学基礎物理Ⅰ	2			2			
工学基礎物理Ⅱ	2				2		
ものづくり科学	3	3					
コンピュータ科学入門	2	2					
製図	1	1					
C言語基礎	1		1				
C言語応用	1			1			
機械計算力学	1				1		
材料学Ⅰ	1		1				
材料学Ⅱ	2			2			
機械工作法Ⅰ	1		1				
機械工作法Ⅱ	2			2			
材料力学Ⅰ	2			2			
材料力学Ⅱ	2				2		
熱力学	2				2		
流れ学Ⅰ	1			1			
流れ学Ⅱ	2				2		
工業力学	1				1		
機構学	1				1		
機械設計法	2				2		
自動制御	2					2	
振動工学	2					2	
センサ工学	1				1		
アイデア設計工学	1					1	
電気工学	2			2			
電子工学	2				2		
工学演習	1				1		
生産技術演習	1					1	
機械製図	4		4				
機械設計製図Ⅰ	3			3			
機械設計製図Ⅱ	2				2		
機械設計製図Ⅲ	1					1	
機械工作実習	4		4				
創造工学演習	3			3			
知能機械演習	2				2		
機械工学実験Ⅰ	2				2		
機械工学実験Ⅱ	3					3	
卒業研究	9					9	
修 得 単 位 計	81	6	11	20	25	19	
選 択 科 目	材料力学Ⅲ	1				1	
	熱機関	1				1	
	流体機械	1				1	
	伝熱工学	1				1	
	システム工学	1				1	
	メカトロニクス	1				1	
	ロボット工学	1				1	
	電子応用	1				1	
	材料科学	1				1	
修 得 単 位 計	5以上					5以上	
修 得 単 位 合 計	86以上	6	11	20	25	24以上	

9単位中5単位  
以上修得

別表3 第13条第4項により施行される授業科目

(2) 機械工学科

授 業 科 目		単位数	学年別配当		備 考
			4年	5年	
必 修 科 目	応用数学	2	2		
	工学基礎物理Ⅱ	2	2		
	材料力学Ⅱ	2	2		
	熱力学	2	2		
	流れ学Ⅱ	2	2		
	自動制御	2		2	
	振動工学	2		2	
計		14	10	4	

# 電 気 電 子 工 学 科

Department of Electrical and Electronic Engineering

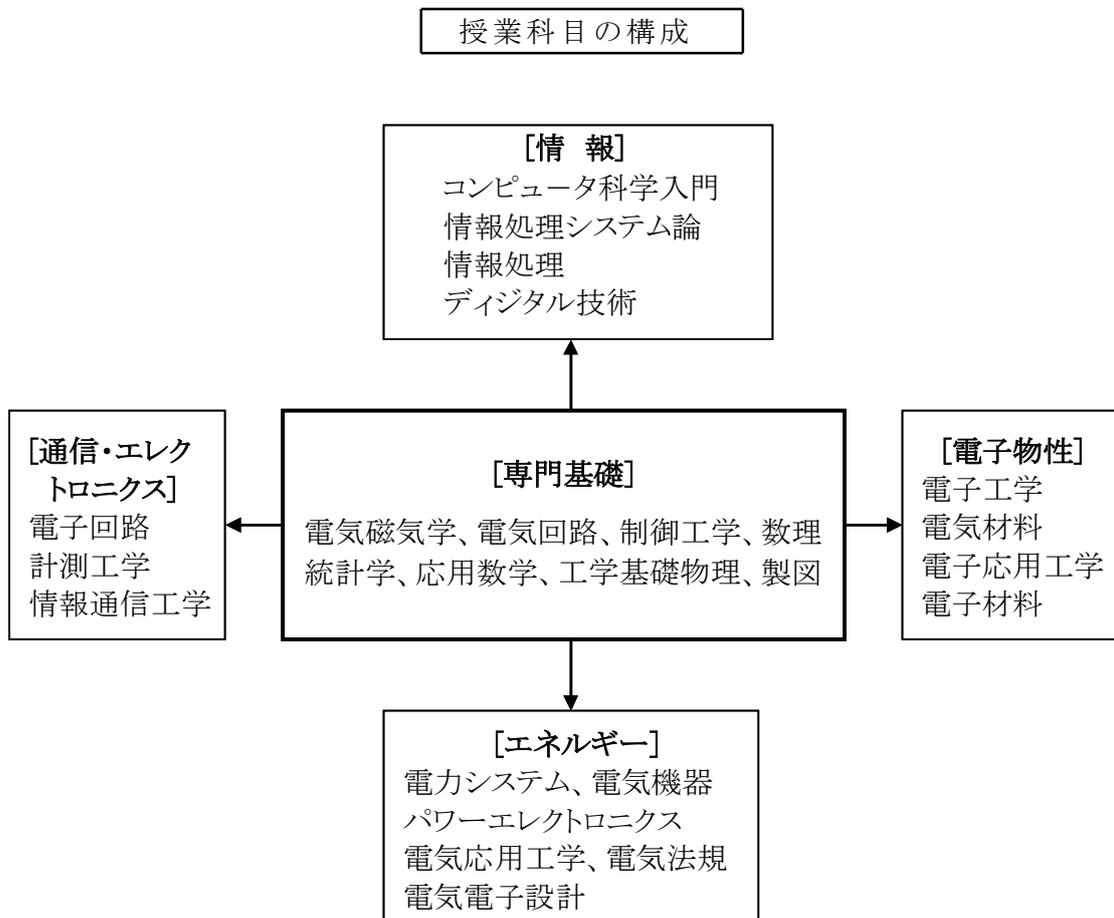
## 1. 概要

あらゆる産業分野で、自動化、省力化、高度情報化が進んでいます。それをささえる中心技術がエレクトロニクスです。電気電子工学科はエレクトロニクスをベースにして、エネルギーから電子物性、情報通信まで含めた電気・電子関連の総合学科です。

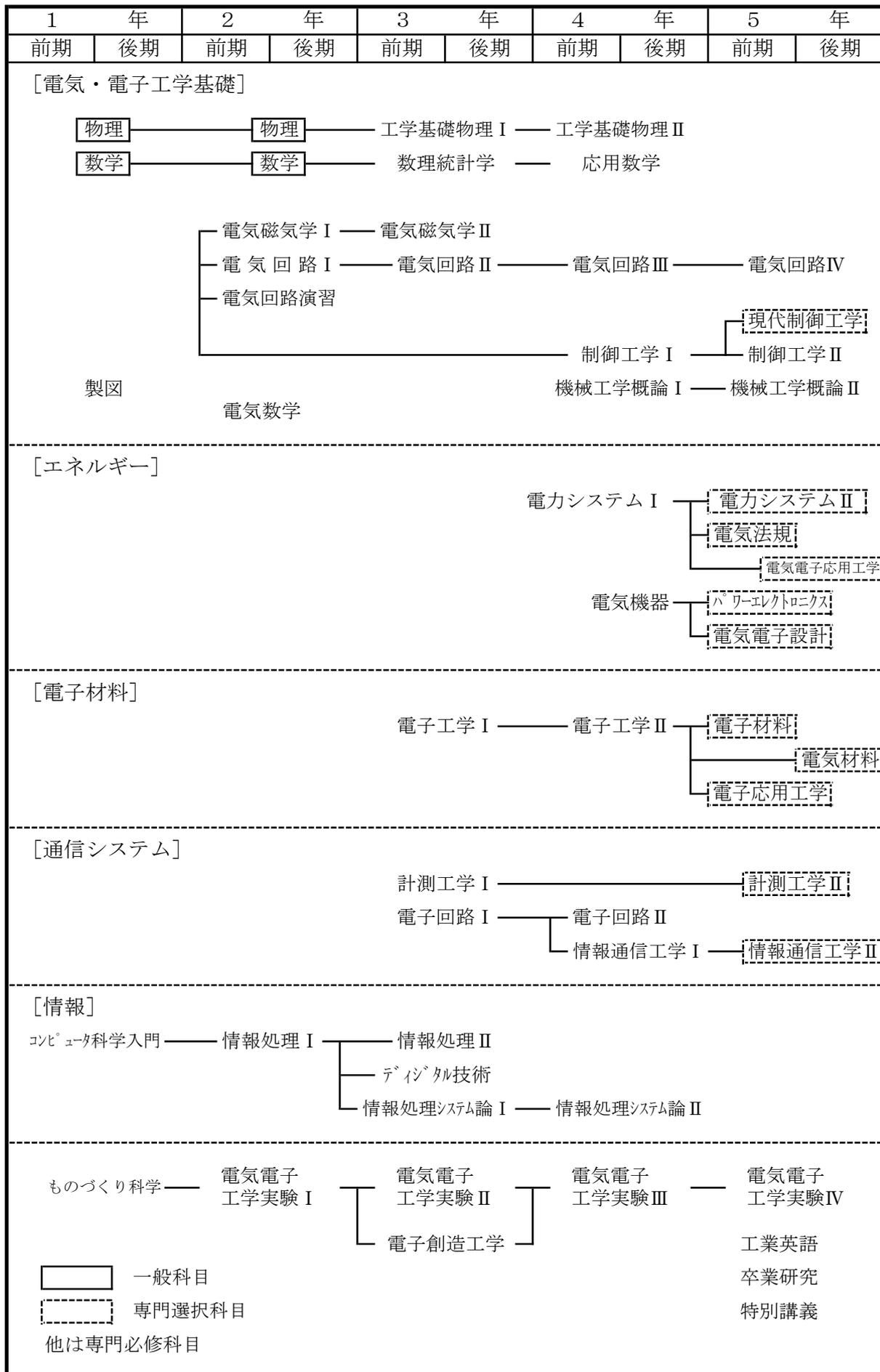
## 2. 授業内容

電気電子工学科の授業内容は、図のようにエネルギー、電子物性、通信エレクトロニクス、情報の4分野に分類されますが、専門基礎科目を共通の基礎として、それぞれの科目が互いに関連性を持っています。

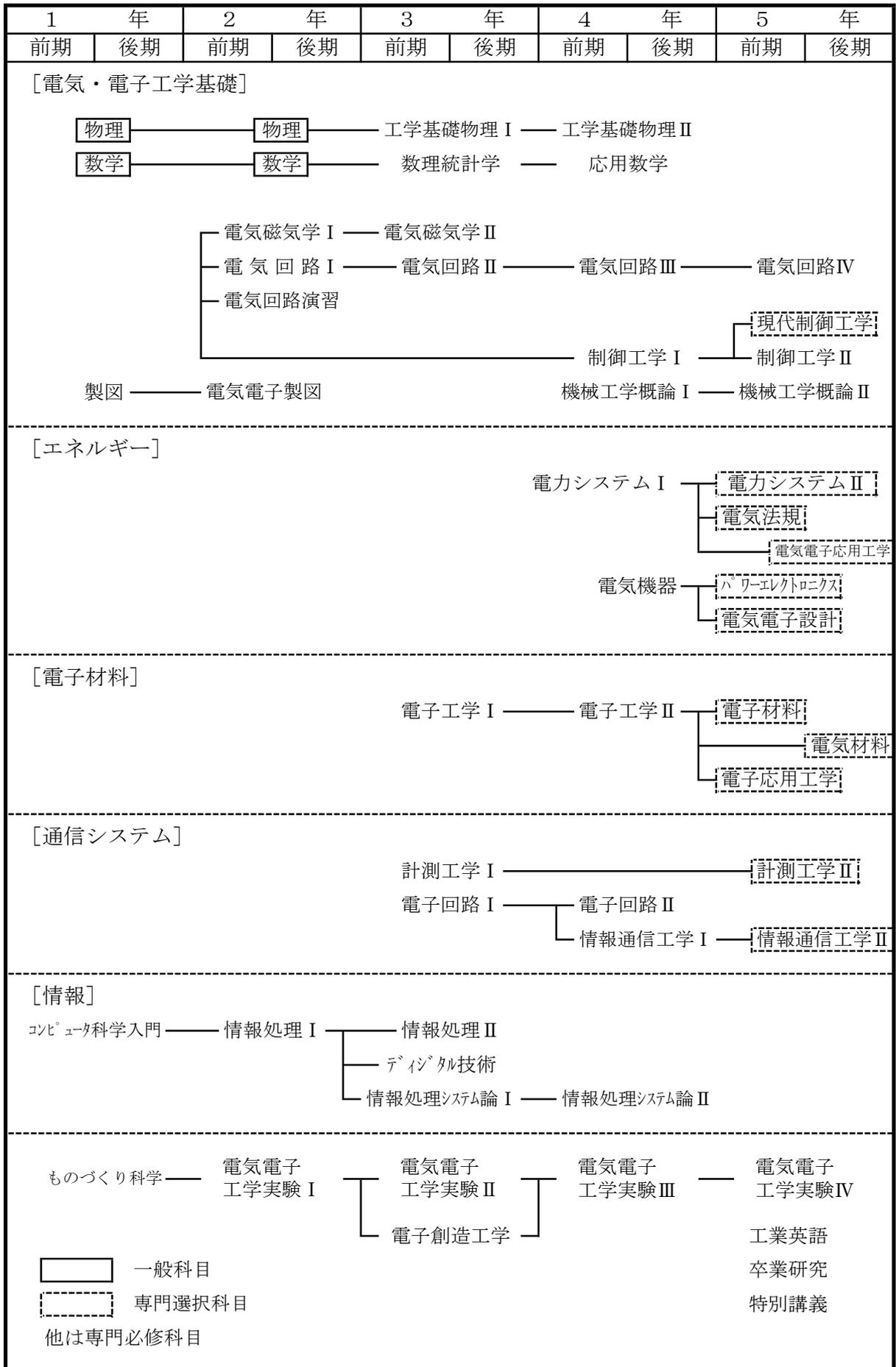
低学年では数学、物理、電気回路、電気磁気学の基礎をしっかり身に付け、高学年では4分野の技術を必修、選択を通して修得します。さらに実験実習、卒業研究によって、電気・電子・情報の応用技術を修得し、基礎学力の上に実践力と豊かな創造力を備え、拡大発展を続ける電気電子工学分野に柔軟に対応できる技術者を育成する内容になっています。



## 電気電子工学科授業科目系統図



## 電気電子工学科授業科目系統図



平成22年度教育課程表

電気電子工学科 (第1・2・3学年)

授業科目	単位数	学年別配当					備考
		1年	2年	3年	4年	5年	
数理統計学	2			2			
応用数学	2				2		
工学基礎物理Ⅰ	2			2			
工学基礎物理Ⅱ	2				2		
ものづくり科学	3	3					
コンピュータ科学入門	2	2					
製図	1	1					
電気磁気学Ⅰ	2		2				
電気磁気学Ⅱ	2			2			
電気数学	1		1				
電気回路Ⅰ	2		2				
電気回路Ⅱ	2			2			
電気回路Ⅲ	2				2		
電気回路Ⅳ	2					2	
電気回路演習	1		1				
計測工学Ⅰ	2			2			
電子工学Ⅰ	2			2			
電子工学Ⅱ	2				2		
電子回路Ⅰ	1			1			
電子回路Ⅱ	2				2		
情報処理Ⅰ	2		2				
情報処理Ⅱ	2			2			
デジタル技術	1			1			
情報処理システム論Ⅰ	2			2			
情報処理システム論Ⅱ	2				2		
情報通信工学Ⅰ	2				2		
電気機器	2				2		
電力システムⅠ	2				2		
制御工学Ⅰ	1				1		
制御工学Ⅱ	1					1	
機械工学概論Ⅰ	2				2		
機械工学概論Ⅱ	2					2	
工業英語	1					1	
電子創造工学	2			2			
電気電子工学実験Ⅰ	2		2				
電気電子工学実験Ⅱ	2			2			
電気電子工学実験Ⅲ	4				4		
電気電子工学実験Ⅳ	2					2	
卒業研究	9					9	
修得単位数計	80	6	10	22	25	17	
選択科目	計測工学Ⅱ	1				1	
	電子材料	1				1	
	電気材料	1				1	
	電気電子応用工学	1				1	
	情報通信工学Ⅱ	1				1	
	パワーエレクトロニクス	1				1	
	電力システムⅡ	1				1	
	現代制御工学	1				1	
	電気法規	1				1	
	電気電子設計	1				1	
修得単位数計	6以上					6以上	
修得単位数合計	86以上	6	10	22	25	23以上	

10単位中6  
単位以上修得

平成22年度教育課程表

電気電子工学科（第4・5学年）

授業科目	単位数	学年別配当					備考
		1年	2年	3年	4年	5年	
数理統計学	2			2			
応用数学	2				2		
工学基礎物理Ⅰ	2			2			
工学基礎物理Ⅱ	2				2		
ものづくり科学	3	3					
コンピュータ科学入門	2	2					
製図	1	1					
電気磁気学Ⅰ	2		2				
電気磁気学Ⅱ	2			2			
電気回路Ⅰ	2		2				
電気回路Ⅱ	2			2			
電気回路Ⅲ	2				2		
電気回路Ⅳ	2					2	
電気回路演習	1		1				
計測工学Ⅰ	2			2			
電子工学Ⅰ	2			2			
電子工学Ⅱ	2				2		
電子回路Ⅰ	1			1			
電子回路Ⅱ	2				2		
情報処理Ⅰ	2		2				
情報処理Ⅱ	2			2			
デジタル技術	1			1			
情報処理システム論Ⅰ	2			2			
情報処理システム論Ⅱ	2				2		
情報通信工学Ⅰ	2				2		
電気機器	2				2		
電力システムⅠ	2				2		
制御工学Ⅰ	1				1		
制御工学Ⅱ	1					1	
電気電子製図	1		1				
機械工学概論Ⅰ	2				2		
機械工学概論Ⅱ	2					2	
工業英語	1					1	
電子創造工学	2			2			
電気電子工学実験Ⅰ	2		2				
電気電子工学実験Ⅱ	2			2			
電気電子工学実験Ⅲ	4				4		
電気電子工学実験Ⅳ	2					2	
卒業研究	9					9	
修得単位数計	80	6	10	22	25	17	
選択科目	計測工学Ⅱ	1				1	
	電子材料	1				1	
	電気材料	1				1	
	電気電子応用工学	1				1	
	情報通信工学Ⅱ	1				1	
	パワーエレクトロニクス	1				1	
	電力システムⅡ	1				1	
	現代制御工学	1				1	
	電気法規	1				1	
	電気電子設計	1				1	
修得単位数計	6以上					6以上	
修得単位数合計	86以上	6	10	22	25	23以上	10単位中6単位以上修得

別表3 第13条第4項により施行される授業科目

(3) 電気電子工学科

授 業 科 目		単位数	学年別配当		備 考
			4年	5年	
必 修 科 目	応用数学	2	2		
	工学基礎物理Ⅱ	2	2		
	電気回路Ⅲ	2	2		
	電気回路Ⅳ	2		2	
	制御工学	2		2	
	機械工学概論Ⅰ	2	2		
	情報処理システム論Ⅱ	2	2		
計		14	10	4	

# 電子情報工学科

(Department of Electronics and Information Engineering)

## 1 概要

電子情報工学科では、インターネットやモバイル機器の基盤技術であるコンピュータ技術、コミュニケーション技術、ロボットに代表されるコントロール技術の分野で、コンピュータを自由に駆使して種々の問題を解決するエンジニアの養成を教育方針にしています。

## 2 授業内容

パソコンや携帯電話のハードウェアの基本を理解するための電子回路、電気回路、電気磁気学、電子材料・デバイスなどの電子系科目、コンピュータの構成法について学ぶ論理回路、計算機構成論、コンピュータアーキテクチャなどの計算機系科目に加え、コンピュータを自在に操るためのプログラミング、情報構造論、オペレーティングシステム、情報理論、情報数学、システム工学、数値解析など情報系基本科目、さらに人工知能、計算機シミュレーション、データベースなど高度な応用科目を学びます。

理論科目の履修に合わせて、演習や実験が全学年を通じて配置されています。電子系の実験でもコンピュータを積極的に活用するなど、コンピュータに触れる時間は他学科の数倍確保されていますので、情報工学分野への興味を持続できます。

与えられた課題に対して、ハードウェアの知識を活用しながらシステム開発を行う創造工学演習を通して洞察力と創造力の育成を行います。実験実習でのグループ作業によって、技術者にとって重要な資質の一つであるコミュニケーション能力が鍛えられます。

さらに卒業研究においては、広い範囲のテーマの中から一つを自主的に選択して、一年間にわたって調査、製作、実験を行い、その成果を論文にまとめ、発表を行います。これらの学習を通して、論理的かつ柔軟な思考力、問題解決能力、情報活用能力、プレゼンテーション能力に優れた技術者を育成することを最終目標としています。

### 授業科目の構成

#### 【電子系科目】

電気回路、電子回路、電気磁気学、電子材料・デバイス、半導体工学

#### 【情報系科目（基礎・計算機・通信分野）】

情報工学基礎、論理回路、計算機構成論、計算機アーキテクチャ

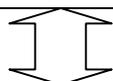
信号解析基礎、通信システム、デジタル信号処理

#### 【情報系科目（応用分野）】

プログラミング基礎、プログラミング応用、オペレーティングシステム

数値計算、情報構造論、情報理論、情報数学、システム工学、情報ネットワーク

人工知能、計算機シミュレーション、データベース、認知科学

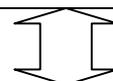


#### 【工学基礎科目】

数学、数理統計学、応用数学

物理、工学基礎物理、電子工学基礎

機械工学概論、制御工学



#### 【体験・実習形総合科目】

情報基礎演習

電子情報工学実験Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ,Ⅳ

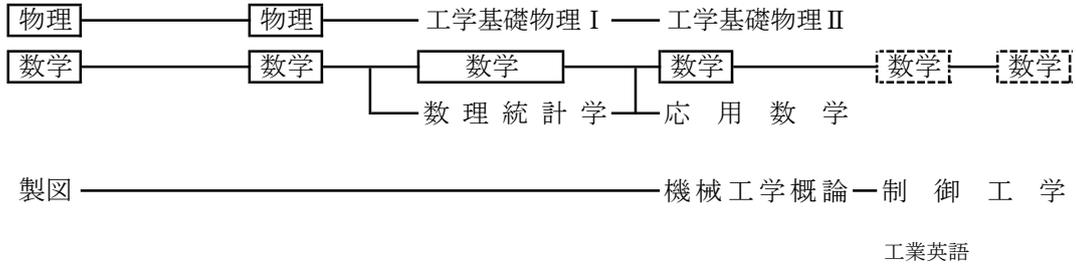
創造工学演習、卒業研究

第1学年, 第2学年, 第3学年, 第4学年, 第5学年

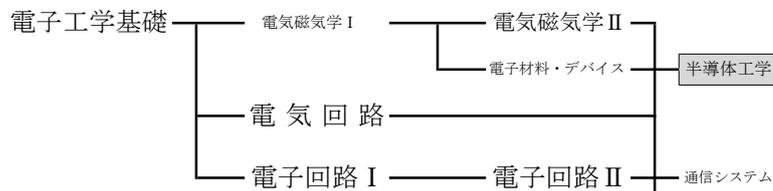
# 電子情報工学科授業科目系統図

1	年	2	年	3	年	4	年	5	年
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

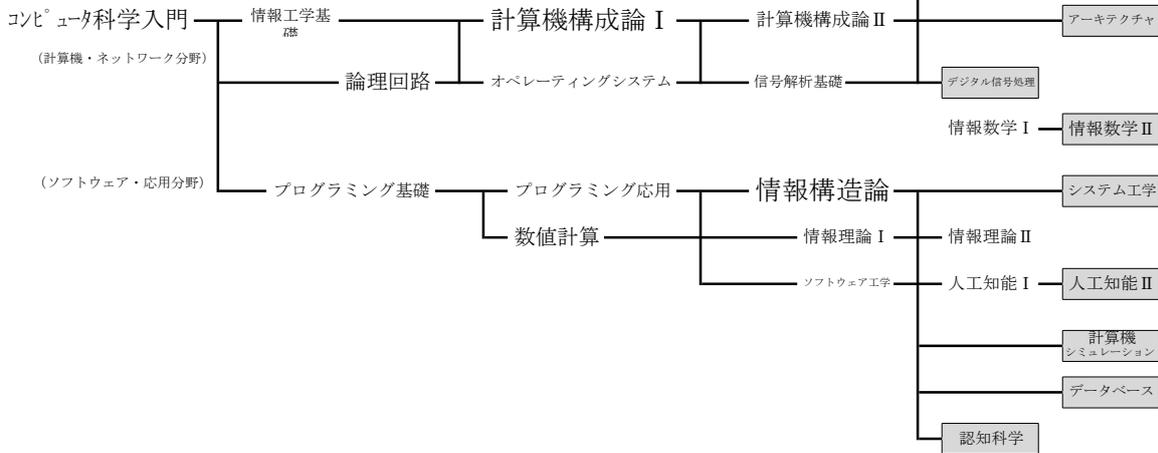
## 【工学基礎科目】



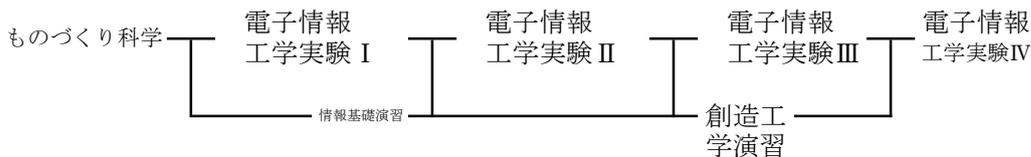
## 【電子系科目】



## 【情報系科目】



## 【体験・実習・総合科目】



□ 一般科目

■ 専門選択科目

他は専門必修科目

卒業研究

特別講義

平成22年度教育課程表

電子情報工学科 (第1・2・3・4・5学年)

授 業 科 目	単位数	学 年 別 配 当					備 考	
		1年	2年	3年	4年	5年		
必修科目	数理統計学	2			2			
	応用数学	2				2		
	工学基礎物理Ⅰ	2			2			
	工学基礎物理Ⅱ	2				2		
	ものづくり科学	3	3					
	コンピュータ科学入門	2	2					
	製図	1	1					
	機械工学概論	2				2		
	電子工学基礎	2		2				
	電気回路	2			2			
	信号解析基礎	1				1		
	電子回路Ⅰ	2			2			
	電子回路Ⅱ	2				2		
	電気磁気学Ⅰ	1			1			
	電気磁気学Ⅱ	2				2		
	数値計算	1			1			
	電子材料・デバイス	2				2		
	工業英語	1					1	
	情報工学基礎	1		1				
	情報基礎演習	1		1				
	プログラミング基礎	2		2				
	プログラミング応用	2			2			
	論理回路	1		1				
	計算機構成論Ⅰ	2			2			
	計算機構成論Ⅱ	2				2		
	オペレーティングシステム	2			2			
	創造工学演習	2				2		
	ソフトウェア工学	1				1		
	情報構造論	2				2		
	制御工学	2					2	
	通信システム	1					1	
	情報ネットワーク	1					1	
	情報理論Ⅰ	1				1		
	情報理論Ⅱ	1					1	
	情報数学Ⅰ	1					1	
	人工知能Ⅰ	1					1	
	電子情報工学実験Ⅰ	4		4				
	電子情報工学実験Ⅱ	4			4			
	電子情報工学実験Ⅲ	4				4		
	電子情報工学実験Ⅳ	2					2	
卒業研究	9					9		
修 得 単 位 計	81	6	11	20	25	19		
9単位中5単位以上修得	情報数学Ⅱ	1				1		
	人工知能Ⅱ	1				1		
	半導体工学	1				1		
	計算機アーキテクチャ	1				1		
	デジタル信号処理	1				1		
	システム工学	1				1		
	計算機シミュレーション	1				1		
	認知科学	1				1		
	データベース	1				1		
修 得 単 位 計	5以上					5以上		
修 得 単 位 合 計	86以上	6	11	20	25	24以上		

別表3 第13条第4項により施行される授業科目

(4) 電子情報工学科

授 業 科 目	単位数	学年別配当		備 考
		4年	5年	
必 修 科 目	応用数学	2	2	
	工学基礎物理Ⅱ	2	2	
	機械工学概論	2	2	
	半導体工学	1		1
	工業英語	1		1
	計算機構成論Ⅱ	2	2	
	情報構造論	2	2	
	通信ネットワーク	1		1
	情報理論Ⅱ	1		1
	情報数学Ⅰ	1		1
計	15	10	5	

# 物質工学科

(Department of Chemistry and Biology Engineering)

## 1. 概要

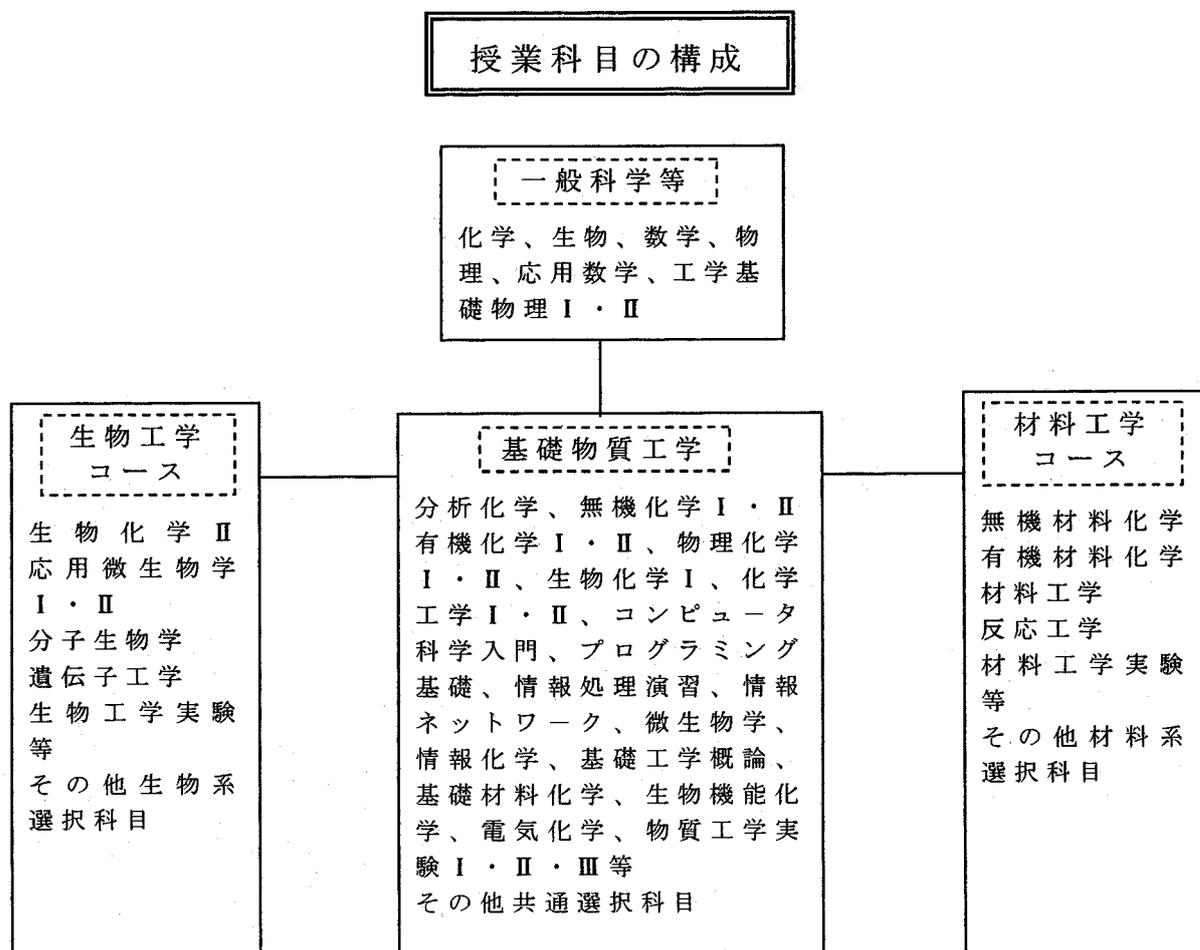
今日、エレクトロニクス、新素材、バイオテクノロジー等、多くの先端分野でめまぐるしいまでの技術革新が進んでいます。

そうした中で、物質工学科では、新しい機能、優れた性質を持つファインケミカルや新素材、なかでも光ファイバーや電子セラミックス、形状記憶合金、エンジニアリングプラスチックなどの無機、有機の機能性材料を扱う「材料工学コース」と、細胞融合、遺伝子組み替えを利用したアグロビジネス、ライフサイエンスとしての医薬品、医療の開発、海洋資源開発などのバイオテクノロジーを扱う「生物工学コース」の2コース制をとっています。さらに、新しい材料、生物、環境及び情報分野の科目を取り入れ、幅広い視野をもった創造性豊かな技術者の育成をめざしています。

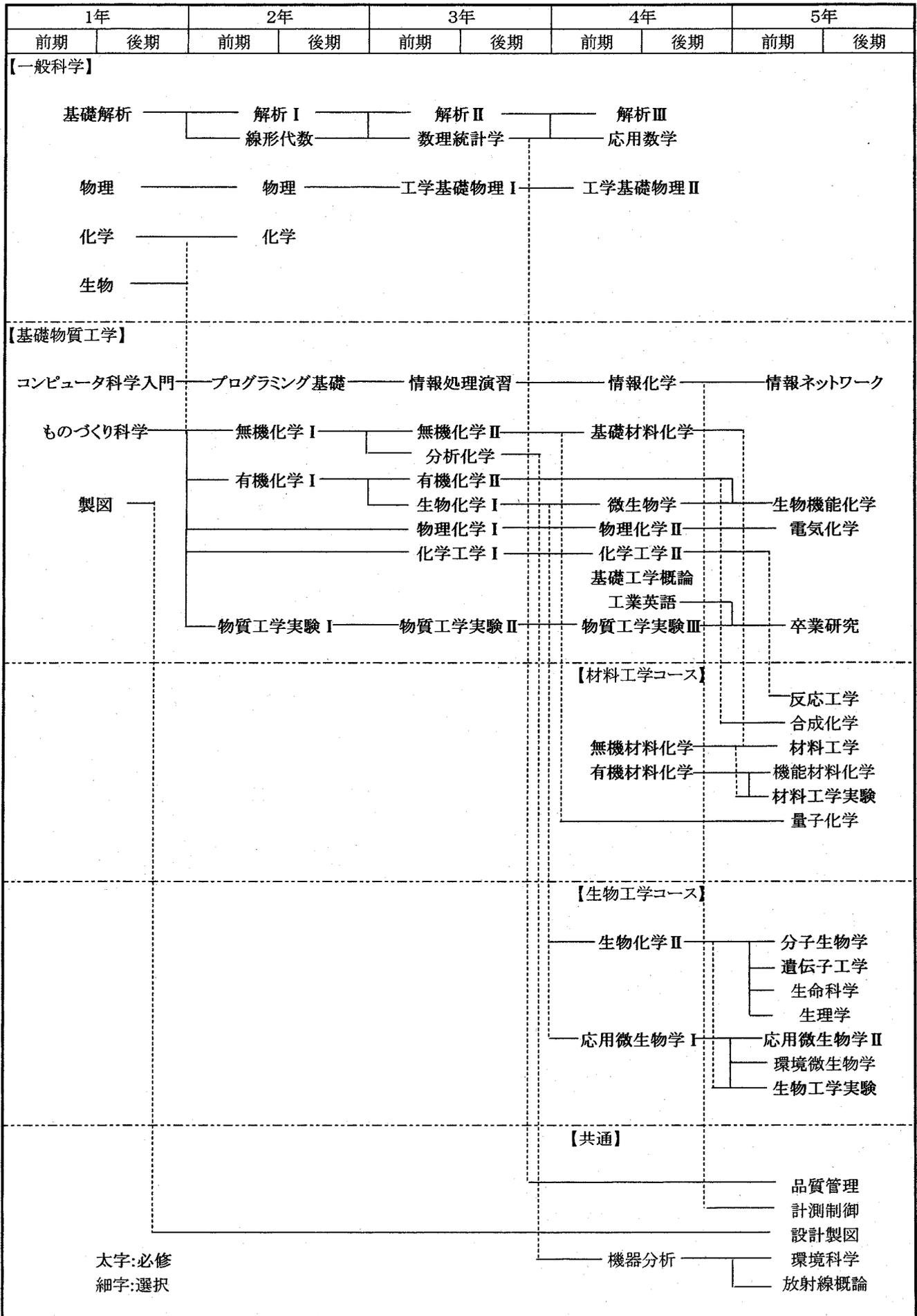
## 2. 授業内容

物質工学科の授業科目は3年次までは、分析化学、無機化学、有機化学、生物化学、物理化学、化学工学、情報処理などの基礎科目を重点的に履修し、4年次からは、バイオ関連科目を取り入れた「生物工学コース」（約15名）と材料関連科目を加味した「材料工学コース」（約25名）のどちらかのコースを選択することができます。選択したコースの必修科目を履修し、さらに、その他の材料系および生物系選択科目と共通選択科目を履修します。

知識を身につけるために、講義と並列した実験に重点を置くとともに、積極的な研究態度や開発能力の養成をめざす卒業研究を最重要視しています。なお、新しい技術の進展に対応し、さらに独創的な技術の開発能力をもつ技術者の養成を目的としています。



# 物質工学科 授業科目系統図



平成22年度教育課程表  
物質工学科 (第1・2学年)

授 業 科 目		単位数	学 年 別 配 当					備 考		
			1年	2年	3年	4年	5年			
必修科目	共 通	数理統計学	2			2				
		応用数学	1				1			
		工学基礎物理Ⅰ	2			2				
		工学基礎物理Ⅱ	2				2			
		ものづくり科学	3	3						
		コンピュータ科学入門	2	2						
		製図	1	1						
		基礎工学概論	2				2			
		工業英語	2				2			
		分析化学	1			1				
		プログラミング基礎	2		2					
		無機化学Ⅰ	2		2					
		無機化学Ⅱ	2			2				
		有機化学Ⅰ	2		2					
		有機化学Ⅱ	2			2				
		物理化学Ⅰ	2			2				
		物理化学Ⅱ	2				2			
		情報処理演習	1			1				
		化学工学Ⅰ	2			2				
		化学工学Ⅱ	2				2			
		生物化学Ⅰ	2			2				
		情報ネットワーク	1					1		
		微生物学	1					1		
		基礎材料化学	1					1		
	情報化学	2					2			
	生物機能化学	2						2		
	電気化学	2						2		
	物質工学実験Ⅰ	5		5						
	物質工学実験Ⅱ	5			5					
	物質工学実験Ⅲ	5				5				
	卒業研究	8						8		
	生物工学コース	生物化学Ⅱ	2				2		コース別に修得すること。	
		応用微生物学Ⅰ	1				1			
応用微生物学Ⅱ		1					1			
分子生物学		2					2			
遺伝子工学		1					1			
生物工学実験		3					3			
材料工学コース	無機材料化学	1				1				
	有機材料化学	2				2				
	材料工学	2					2			
	反応工学	2					2			
	材料工学実験	3					3			
修得単位計		81	6	11	21	23	20			
選択科目	共 通	計測制御	1				1	1単位以上修得すること。		コース別に、10単位(共通及びコース別開設単位数の合計)中5単位以上修得すること。
		品質管理	1				1			
		設計製図	1				1			
		機器分析	2				2			
		放射線概論	1				1			
		環境科学	1				1			
	生物工学コース	生命科学	1				1	1単位以上修得すること。		
		生理学	1				1			
		環境微生物学	1				1			
	材料工学コース	合成化学	1				1	1単位以上修得すること。		
		機能材料化学	1				1			
		量子化学	1				1			
	修得単位計		5以上				5以上			
修得単位合計		86以上	6	11	21	48以上				

平成22年度教育課程表  
物質工学科 (第3・4・5学年)

授 業 科 目		単位数	学 年 別 配 当					備 考	
			1年	2年	3年	4年	5年		
必修科目	共通	数理統計学	2			2			
		応用数学	1				1		
		工学基礎物理Ⅰ	2			2			
		工学基礎物理Ⅱ	2				2		
		ものづくり科学	3	3					
		コンピュータ科学入門	2	2					
		製図	1	1					
		基礎工学概論	2				2		
		工業英語	2				2		
		分析化学Ⅰ	2		2				
		分析化学Ⅱ	1			1			
		プログラミング基礎	2		2				
		無機化学Ⅰ	1		1				
		無機化学Ⅱ	2			2			
		有機化学Ⅰ	1		1				
		有機化学Ⅱ	2			2			
		物理化学Ⅰ	2			2			
		物理化学Ⅱ	2				2		
		情報処理演習	1			1			
		化学工学Ⅰ	2			2			
		化学工学Ⅱ	2				2		
		生物化学Ⅰ	2			2			
		情報ネットワーク	1					1	
		微生物学	1				1		
		基礎材料化学	1				1		
		情報化学	2				2		
		生物機能化学	2					2	
	電気化学	2					2		
	物質工学実験Ⅰ	5		5					
	物質工学実験Ⅱ	5			5				
	物質工学実験Ⅲ	5				5			
	卒業研究	8					8		
	生物工学コース	生物化学Ⅱ	2				2	コース別に修得すること。	
応用微生物学Ⅰ		1				1			
応用微生物学Ⅱ		1				1			
分子生物学		2				2			
遺伝子工学		1				1			
生物工学実験		3				3			
材料工学コース	無機材料化学	1				1			
	有機材料化学	2				2			
	材料工学	2				2			
	反応工学	2				2			
	材料工学実験	3				3			
修得単位計		81	6	11	21	23	20		
選択科目	共通	計測制御	1				1		1単位以上修得すること。
		品質管理	1				1		
		設計製図	1				1		
		機器分析	2				2		
		放射線概論	1				1		
	生物工学コース	生命科学	1				1	1単位以上修得すること。	
		生理学	1				1		
		環境微生物学	1				1		
	材料工学コース	合成化学	1				1	1単位以上修得すること。	
		機能材料化学	1				1		
		量子化学	1				1		
	修得単位計		5以上				5以上		
	修得単位合計		86以上	6	11	21	48以上		

別表3 第13条第4項により施行される授業科目

(5) 物質工学科

授 業 科 目		単位数	学年別配当		備 考
			4年	5年	
必 修 科 目	共 通 科 目	工学基礎物理Ⅱ	2	2	
		基礎工学概論	2	2	
		工業英語	2	2	
		物理化学Ⅱ	2	2	
		化学工学Ⅱ	2	2	
		情報化学	2	2	
計		12	12		

# 環境都市工学科

(Department of Civil Engineering)

## 1 概要

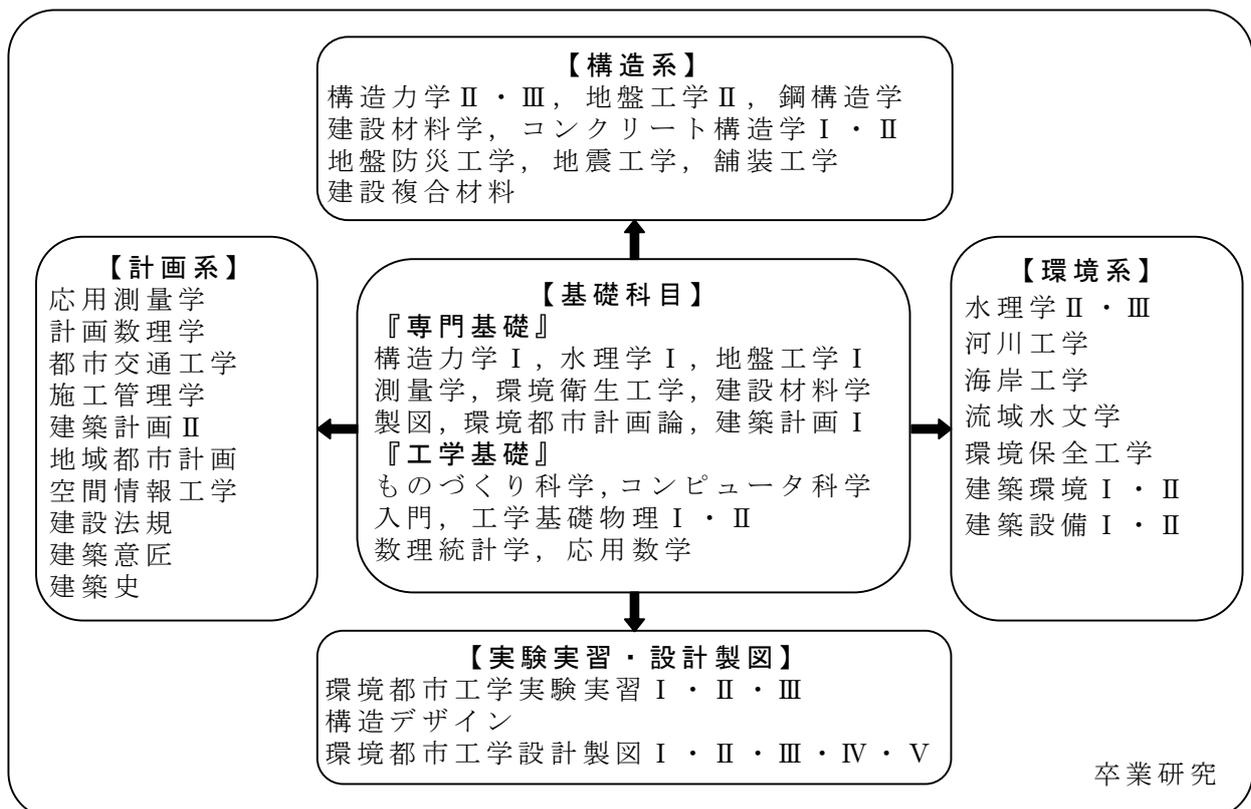
持続可能性を重んじる21世紀では、地球と地域の環境を保全しつつ、より安全・安心で快適な暮らしを続けられることが求められています。建設（建築・土木）工学技術は、建築物・土木構造物の設計・施工及び維持・管理・更新が主な仕事です。雨や風を防ぎ日々の生活をするための住居や、洪水や地震などの自然災害から住民を守るための堤防や擁壁、人や生活物資を運ぶために必要な交通網やライフラインなどが仕事の対象物です。近年、価値意識が大きく変化し、物質的な豊かさより心の豊かさや生活の潤いを求めるようになってきています。また、便利さだけを求める都市中心の時代は陰りを見せ、都市と田園と生態系とが調和する地域づくりの傾向が広がりつつあります。このため、建設工学技術の使命は、自然生態系と人に優しく豊かで潤いのある建築、社会資本、都市、地域に対する人々の要望を具体化することになってきています。

このような社会の要請に応えるために、環境都市工学科では、「安全・安心で快適な社会資本を創成し保全する建設工学の最新技術」を学ぶとともに、「環境の持続可能性に重点を置いた建築、都市、地域づくりの理念や方法」を学びます。

## 2 授業内容

環境都市工学科では、構造力学Ⅰ・水理学Ⅰ・地盤工学Ⅰなどの専門基礎科目を体系的に教育することに加え、鋼構造学・コンクリート構造学などの構造系科目、建築計画・環境都市計画論・計画数理学などの計画系科目、建築環境・環境衛生工学などの環境系科目を重視し、理論に関する学習と演習をとおして理解を深め、応用力を養うことに努めています。そして、実験実習や設計製図では、これらの知識を統合して実践力を養成します。

### 授業科目の構成



## 環境都市工学科専門科目系統図(2009・2010年度入学生)

内容	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	選択	
構造・材料		構造力学Ⅰ	→ 構造力学Ⅱ	→ 構造力学Ⅲ	→ 鋼構造学		
				→ コンクリート構造学Ⅰ	→ 鋼-コンクリート構造学Ⅱ	※	
			→ 建設材料学	→	→ 舗装工学	※	
				→	→ 建設複合材料		
水理・河川・海岸			→ 水理学Ⅰ	→ 水理学Ⅱ	→ 水理学Ⅲ	※	
					→ 海岸工学	※	
					→ 河川工学	※	
					→ 流域水文学	※	
環境・保全			→ 環境衛生工学	→	→ 環境保全工学	※	
				→ 建築環境Ⅰ	→ 建築環境Ⅱ	※ ☆	
					→ 建築設備Ⅰ		
					→ 建築設備Ⅱ	※ ☆	
地盤・防災			→ 地盤工学Ⅰ	→ 地盤工学Ⅱ	→ 地盤防災工学	※	
					→ 地震工学	※	
測量・計測		→ 測量学	→ 応用測量学	→	→ 空間情報工学	※	
設計・製図	→ 製図	→ 環境都市工学設計製図Ⅰ	→ 環境都市工学設計製図Ⅱ	→ 環境都市工学設計製図Ⅲ	→ 環境都市工学設計製図Ⅳ	→ 環境都市工学設計製図Ⅴ	※ ☆
				→ 環境都市工学設計製図Ⅳ			
計画・運用法規			→ 環境都市計画論	→ 計画数理学			
				→ 都市交通工学	→ 地域都市計画	※ ☆	
				→ 施工管理学	→ 建設法規		
建築計画		→ 建築計画Ⅰ	→	→ 建築計画Ⅱ	→ 建築意匠	※ ☆	
					→ 建築史	※ ☆	
実験・実習		→ 環境都市工学実験実習Ⅰ	→ 環境都市工学実験実習Ⅱ	→ 環境都市工学実験実習Ⅲ	→ 構造デザイン		
↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓    ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑    ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓							
工学基礎科目	→ ものづくり科学	→	→	→ 工学基礎物理Ⅰ	→ 工学基礎物理Ⅱ		
	↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓						
				→ 数理統計学	→ 応用数学		
	→ コンピュータ科学入門	→	→	→	→	→ 数値解析	
↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓    ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓							
卒業研究					→ 卒業研究9単位		

※は選択科目で16単位中4単位以上を取得  
☆は卒業後一級建築士を受験するために必要な選択科目

## 環境都市工学科専門科目系統図(2007・2008年度入学生)

内容	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年
構造・材料		構造力学Ⅰ	→ 構造力学Ⅱ	→ 構造力学Ⅲ	→ 鋼構造学
				→ コンクリート構造学Ⅰ	→ コンクリート構造学Ⅱ ※
			→ 建設材料学	→ →→→→	→ 舗装工学 ※
					→ 建設複合材料
水理・河川・海岸			→ 水理学Ⅰ	→ 水理学Ⅱ	→ 海岸工学 ※
				→ 河川工学	→ 水文学 ※
環境・保全			→ 環境衛生工学	→ →→→→ → 建築設備	→ 環境保全工学 ※
地盤・防災			→ 地盤工学Ⅰ	→ 地盤工学Ⅱ	→ 防災工学 ※
					→ 地震工学 ※
測量・計測		→ 測量学	→ 応用測量学		
設計・製図		→ CAD	→ →→→→	→ 環境都市工学設計製図Ⅰ	→ 環境都市工学設計製図Ⅱ
	→ 製図			→ →→→→	→ 構造デザイン
		→ 建築デザイン			
計画・運用法規			→ 環境都市計画論	→ 計画数理学	
				→ 都市交通工学	→ 地域都市計画 ※
				→ 施工管理学	→ 建設法規
実験・実習		→ 環境都市工学実験実習Ⅰ	→ 環境都市工学実験実習Ⅱ	→ 環境都市工学実験実習Ⅲ	
↑↑↑↑↑↑ ↓↓↓↓↓↓					
工学基礎科目	→ ものづくり科学			→ 工学基礎物理Ⅰ	→ 工学基礎物理Ⅱ
	↓↓↓↓↓↓↓			→ 数理統計学	→ 応用数学
	→ コンピュータ科学入門	→ →→→→	→ →→→→	→ →→→→	→ →→→→
↓↓↓↓↓↓↓ ↓↓↓↓↓↓					
卒業研究					→ 卒業研究

※は選択科目で10単位中3単位以上を取得

環境都市工学科専門科目系統図(2006年度入学生)

内容	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年
構造・材料		応用力学	→ 構造力学Ⅰ	→ 構造力学Ⅱ	→ 橋工学 ※
				→	→ コンクリート構造学 ※
		地学	→ 建設材料学	→	→ コンクリート構造学Ⅰ 建設複合材料 ※
					→ 舗装工学 ※
水・環境			水理学Ⅰ	→ 水理学Ⅱ	→
					→ 海岸環境工学 ※
				→ 環境衛生工学	→ 河川環境工学 環境保全工学 ※
地盤・防災			地盤工学Ⅰ	→ 地盤工学Ⅱ	→ 地盤防災工学 ※
					→ 地震工学 ※
測量・計測		測量学Ⅰ	→ 応用測量学	→ → → → →	→ 空間情報工学 ※
		測量学Ⅱ			
設計・製図	製図	→ CAD			→ 環境都市工学設計製図Ⅱ ※
				→ 環境都市工学設計製図Ⅰ	→ 環境都市工学設計製図Ⅲ
計画・管理			環境都市計画論	→ 計画数理学	
				→ 都市交通工学	→ 地域都市計画 ※
				→ 施工管理学	
実験・実習		環境都市工学実験実習Ⅰ	→ 環境都市工学実験実習Ⅲ	→ 環境都市工学実験実習Ⅳ	→ 環境都市工学演習
		環境都市工学実験実習Ⅱ			
工学基礎科目	ものづくり科学	→		工学基礎物理Ⅰ	→ 工学基礎物理Ⅱ
	↓↓↓↓↓↓			数理統計学	→ 応用数学
	コンピュータ科学入門	→	→ → → → →	→	→ → → → →
↓↓↓↓↓↓					↓↓↓↓↓↓
卒業研究					卒業研究

※は選択科目で12単位中4単位以上を取得

平成22年度教育課程表  
環境都市工学科 (第1・2学年)

授 業 科 目	単位数	学 年 別 配 当					備 考
		1年	2年	3年	4年	5年	
数理統計学	2			2			
応用数学	2				2		
工学基礎物理Ⅰ	2			2			
工学基礎物理Ⅱ	2				2		
ものづくり科学	3	3					
コンピュータ科学入門	2	2					
製図	1	1					
数値解析	2					2	
構造力学Ⅰ	2		2				
構造力学Ⅱ	2			2			
構造力学Ⅲ	2				2		
鋼構造学	2					2	
コンクリート構造学Ⅰ	2				2		
建設材料学	2			2			
建設複合材料	1					1	
水理学Ⅰ	2			2			
水理学Ⅱ	2				2		
地盤工学Ⅰ	2			2			
地盤工学Ⅱ	2				2		
環境衛生工学	2			2			
建築環境Ⅰ	1				1		
建築設備Ⅰ	1					1	
測量学	3		3				
応用測量学	1			1			
環境都市計画論	2			2			
計画数理学	2				2		
都市交通工学	1				1		
施工管理学	2				2		
建設法規	1					1	
構造デザイン	1					1	
建築計画Ⅰ	1		1				
建築計画Ⅱ	1				1		
環境都市工学設計製図Ⅰ	2		2				
環境都市工学設計製図Ⅱ	2			2			
環境都市工学設計製図Ⅲ	2				2		
環境都市工学設計製図Ⅳ	2				2		
環境都市工学実験実習Ⅰ	3		3				
環境都市工学実験実習Ⅱ	3			3			
環境都市工学実験実習Ⅲ	3				3		
卒業研究	9					9	
修 得 単 位 計	82	6	11	22	26	17	
選 択 科 目	地盤防災工学	1				1	
	地震工学	1				1	
	コンクリート構造学Ⅱ	1				1	
	地域都市計画	1				1	
	舗装工学	1				1	
	環境保全工学	1				1	
	河川工学	1				1	
	流域水文学	1				1	
	海岸工学	1				1	
	水理学Ⅲ	1				1	
	空間情報工学	1				1	
	建築史	1				1	
	建築意匠	1				1	
	建築環境Ⅱ	1				1	
	建築設備Ⅱ	1				1	
	環境都市工学設計製図Ⅴ	1				1	
修 得 単 位 計	4以上					4以上	
修 得 単 位 合 計	86以上	6	11	22	26	21以上	

16単位中4単位以上修得

平成22年度教育課程表  
環境都市工学科 (第3・4学年)

授 業 科 目	単位数	学 年 別 配 当					備 考
		1年	2年	3年	4年	5年	
数理統計学	2			2			
応用数学	2				2		
工学基礎物理Ⅰ	2			2			
工学基礎物理Ⅱ	2				2		
ものづくり科学	3	3					
コンピュータ科学入門	2	2					
製図	1	1					
CAD	2		2				
建築デザイン	1		1				
構造デザイン	2					2	
数値解析	2					2	
構造力学Ⅰ	2		2				
構造力学Ⅱ	3			3			
構造力学Ⅲ	2				2		
水理学Ⅰ	3			3			
水理学Ⅱ	2				2		
地盤工学Ⅰ	2			2			
地盤工学Ⅱ	2				2		
建設材料学	2			2			
コンクリート構造学Ⅰ	2				2		
建設複合材料	1					1	
鋼構造学	2					2	
測量学	3		3				
応用測量学	1			1			
環境都市計画論	2			2			
計画数理学	2				2		
都市交通工学	2				2		
施工管理学	2				2		
河川工学	1				1		
環境衛生工学	2			2			
建築設備	1				1		
建設法規	1					1	
環境都市工学設計製図Ⅰ	2				2		
環境都市工学設計製図Ⅱ	2					2	
環境都市工学実験実習Ⅰ	3		3				
環境都市工学実験実習Ⅱ	3			3			
環境都市工学実験実習Ⅲ	3				3		
卒業研究	9					9	
修 得 単 位 計	83	6	11	22	25	19	
選 択 科 目	防災工学	1				1	
	コンクリート構造学Ⅱ	1				1	
	地震工学	1				1	
	地域都市計画	1				1	
	舗装工学	2				2	
	環境保全工学	2				2	
	水文学	1				1	
	海岸工学	1				1	
修 得 単 位 計	3以上					3以上	
修 得 単 位 合 計	86以上	6	11	22	25	22以上	

10単位中3単位以上修得

平成22年度教育課程表  
環境都市工学科（第5学年）

授 業 科 目	単位数	学 年 別 配 当					備 考
		1年	2年	3年	4年	5年	
数理統計学	2			2			
応用数学	2				2		
工学基礎物理Ⅰ	2			2			
工学基礎物理Ⅱ	2				2		
ものづくり科学	3	3					
コンピュータ科学入門	2	2					
製図	1	1					
応用力学	2		2				
地学	1		1				
プログラミング	1			1			
CAD	2		2				
数値解析	2					2	
構造力学Ⅰ	3			3			
構造力学Ⅱ	2				2		
水理学Ⅰ	3			3			
水理学Ⅱ	2				2		
地盤工学Ⅰ	2			2			
地盤工学Ⅱ	2				2		
建設材料学	2			2			
コンクリート構造学Ⅰ	2				2		
建設複合材料	1					1	
測量学Ⅰ	2		2				
測量学Ⅱ	1		1				
応用測量学	1			1			
環境都市計画論	2			2			
計画数理学	2				2		
都市交通工学	2				2		
施工管理学	2				2		
環境衛生工学	2				2		
河川環境工学	2					2	
環境都市工学設計製図Ⅰ	2				2		
環境都市工学設計製図Ⅱ	2					2	
環境都市工学設計製図Ⅲ	2					2	
環境都市工学実験実習Ⅰ	2		2				
環境都市工学実験実習Ⅱ	1		1				
環境都市工学実験実習Ⅲ	3			3			
環境都市工学実験実習Ⅳ	3				3		
環境都市工学演習	1					1	
卒業研究	9					9	
修得単位計	82	6	11	21	25	19	
選 択 科 目	橋工学	2				2	
	地盤防災工学	1				1	
	コンクリート構造学Ⅱ	1				1	
	地震工学	1				1	
	空間情報工学	1				1	
	地域都市計画	1				1	
	舗装工学	2				2	
	環境保全工学	2				2	
	海岸環境工学	1				1	
修得単位計	4以上					4以上	
修得単位合計	86以上	6	11	21	25	23以上	

別表3 第13条第4項により施行される授業科目

(6) 環境都市工学科

授 業 科 目		単位数	学年別配当		備 考
			4年	5年	
必 修 科 目	応用数学	2	2		
	工学基礎物理Ⅱ	2	2		
	構造力学Ⅱ	2	2		
	水理学Ⅱ	2	2		
	地盤工学Ⅱ	2	2		
	コンクリート構造学Ⅰ	2	2		
	計画数理学	2	2		
計		14	14		